

# 適期中干しで籾数過剰による品質低下を防止しよう！

## 1 中干し・溝切りの実施と水管理

### (1) 中干し

目的：①適正生育量（穂数）の確保、②土壌への酸素供給による根の健全化、③収穫期の地耐力確保

開始時期：茎数が目標穂数の7～8割（1株あたり15本程度（60株/坪））になる頃

めやすは コシヒカリ・・・田植後30日　こしいぶき、つきあかり、新潟次郎等・・・田植後35日

※高温が続いた場合、茎数の増加が早まるので上記のめやすより早めに中干しを始めてください。

程度：田面に小さいヒビが入る程度  
大ヒビが入ると、根を切断するばかりでなく、その後の水持ちが悪くなります。

終了時期：ほ場の中央部まで小ヒビが入ったら  
中干し開始が遅れた場合も、出穂の30日前（コシヒカリの場合、遅くとも7月5日頃）には終わらせてください。



○ 小ヒビ

× 大ヒビ

小指が入るような大きさのヒビにしない！

### (2) 溝切り

目的：中干しの効果を高める、迅速な入水や排水が可能になる

方法：めやすは8条～10条に1本程度の間隔で深さ10cm程度の溝を切る

排水が悪いところは溝を切る間隔を狭く、良いところは広くなど、ほ場の条件に合わせて溝の数を加減してください。また、水がしっかり流れるように、それぞれの溝と水口・水尻を確実につないでください。

### (3) 中干し後の水管理 「乾かさない」かつ「水をためすぎない」管理を

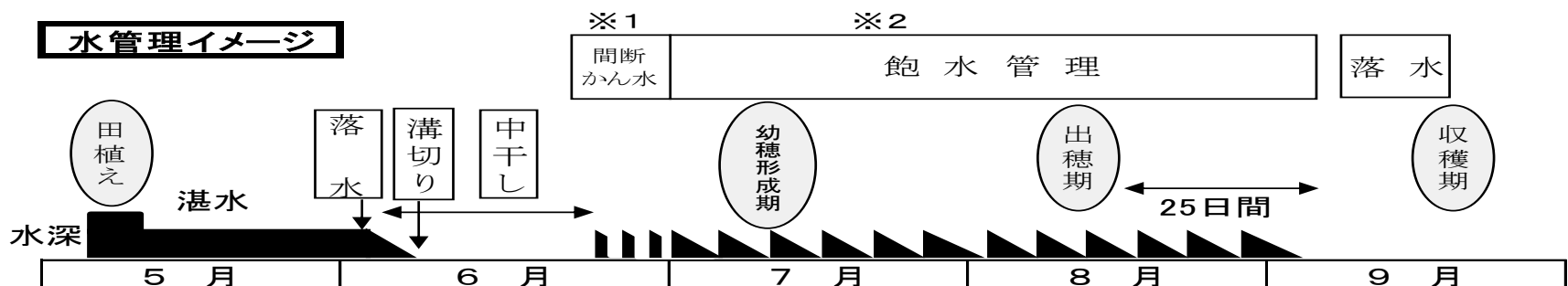
- ・ 昨年は、穂肥時期まで中干しを続けていたほ場も見られました。水が無いと、生育後半の栄養分を確保するのに重要な役割をする「うわ根」の発達が悪くなり、登熟不良の要因にもなります。
- ・ 中干しの後、7月上旬からは浅水の間断かん水※1を行い、その後は飽水管理※2に移りましょう。ただし、水はけが悪くてなかなか水が減らないほ場は間断かん水を続けてください。

※1 間断かん水

：湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す。

※2 飽水管理

：水尻を止め、溝や足跡の底に水がたまるぐらいまでに水が減ったらかん水する。



## 2 病害虫の防除と雑草対策

### (1) 畦畔の除草（カメムシ類の防除）

カメムシ類の発生量を減らすため、雑草が種子を着ける前に、畦畔・農道・ほ場の近接地の草刈りを徹底しましょう。

### (2) 補植苗の撤去

補植苗がいつまでもほ場にあると、いもち病や害虫発生の原因になります。早急に撤去してください。

### (3) 水田内の雑草対策

中干し以降の雑草多発は、減収やカメムシ類のほ場侵入の原因となります。手取りや中・後期除草剤で除草しましょう。

【お知らせ】糸魚川農業情報サービスに加入しませんか？

- ・ 右のQRコードか、下記メールアドレスに空メールを送信してください。

[mail@itoigawa-agrinews.info](mailto:mail@itoigawa-agrinews.info)

- ・ 水稻の生育情報等を随時お知らせしています。



## 3 中間追肥（ケイ酸追肥）

- ・ ケイ酸には、①稲を硬くすることで倒伏や病害虫被害を軽減する、②根の水分吸収力を向上し、特に高温時の品質低下を軽減する、効果があります。
- ・ 出穂40日前頃（コシヒカリの場合連休植えて6月下旬、5/15以降の遅植えて7月上旬がめやす）にケイ酸カリなどの追肥を実施し、稲の活力を高めましょう。

【使用資材例】

資材名	10aあたり施肥量	備考
ケイ酸カリプレミアム 34	20～40kg	ケイ酸+カリ
スーパーシリカプレミアム	20～40kg	ケイ酸のみ

## 『収量・品質向上！糸魚川産米』

J Aひすい「コシヒカリBLエコライス栽培」に取り組みましょう。

お問い合わせ先	ひすい農業協同組合(営農部)	TEL 0120-640-184
	糸魚川NOSA Iセンター	TEL 0120-916-406
	糸魚川地域振興局農林振興部	TEL 553-1906
	(農業普及指導センター)	

糸魚川市農林水産業振興協議会（糸魚川市、J Aひすい、NOSA I 新潟県、糸魚川地域振興局農林振興部）